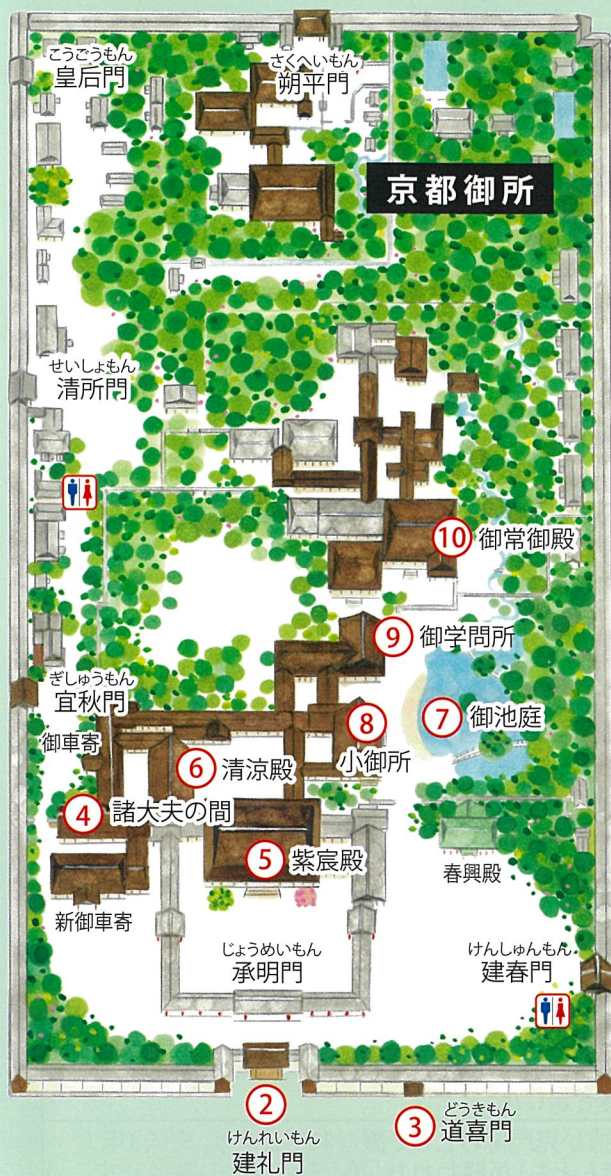




① 西園寺邸跡



② 建礼門



③ 道喜門



④ しょだいぶ
諸大夫の間



高御座



⑤ 紫宸殿



⑥ 清涼殿



⑦ 御池庭



⑧ 小御所



⑨ 御学問所



⑩ 御常御殿



あがたい
縣井

(画像提供: 宮内庁京都事務所)

京都御所歴史散策コース 90分

①	西園寺邸跡	明治時代、西園寺公望は文部大臣や2度の首相を務めました。この場所に、短い間でしたが私塾「立命館」を開きました。その名称は現在の立命館大学に受け継がれています。
②	建礼門	御所の正門で、檜皮葺き、切妻屋根の格調高い四脚門です。天皇陛下や国賓が来られた時などに開門されます。葵祭や時代祭の行列はこの門の前から出発します。
③	道喜門	川端道喜は、約300年間毎朝、朝廷に「お朝物」として塩餡でくるんだお餅を献上し続けました。いつとはなしに建礼門の東側の穴門は、道喜門と呼ばれるようになりました。
④	しょだいぶ 諸大夫の間	参内者の控えの間。格式に応じて使用する部屋が異なります。手前から襖の絵柄によって「桜の間」「鶴の間」「虎の間」と呼ばれ、奥に行くほど格が高くなっています。
⑤	紫宸殿	御所の正殿で、高御座(たかみくら)が置かれています。安政2年(1855)に、寛政期造営(1790)を踏襲した宮殿が再建されました。明治天皇、大正天皇、昭和天皇の即位の礼はここで執り行われました。
⑥	清涼殿	当初は天皇の日常の御殿として使われ、政治や神事もここで行われました。昼御座(ひのおまし)と呼ばれる玉座があります。
⑦	御池庭	小堀遠州も作庭に関わったと伝わる池泉回遊式の庭。中央に神仙思想による三つの島が造られ、手前は玉石敷きの州浜となっています。
⑧	小御所	立太子の儀式や、江戸時代には諸大名の引見にも使われました。慶応3年(1867)、徳川慶喜の処遇、辞官納地を決定する小御所会議が行われた所として知られています。
⑨	御学問所	月次(つきなみ)の和歌御会を行うなど天皇の学問の場でした。慶応3年(1867)、この場所で、明治天皇より「王政復古の号令」が発せられ、新政府が成立しました。
⑩	御常御殿	豊臣秀吉が行った天正の造営を機に、天皇の日常のお住まいとして建てられ、内向きの儀式や対面の場としても使われました。

※追加説明史跡 (枇杷殿跡)(有栖川邸跡)(縣井)